



1学期の学習成果を整理する時期となりました。子どもたちにとっては、進学、進級を経て、自分のがんばりや成長を振り返る一つの節目の時期と言えます。教師としては、そのがんばり等を確実に子どもたちに返して、残していきたいものです。

また、1学期の実践を振り返り、2学期以降の教育実践がより充実するように、教育課程を評価し、改善を図る中間評価の時期でもあります。今後、授業づくり振り返りシートの実施や学部会等での教育課程に関する話し合いが行われます。ライフキャリアの視点を基に、学部経営、学級経営、指導の形態（年間）等の目標の達成度とその要因（学習形態、単元計画、時数、手立て等）を評価し、2学期以降の教育実践を結び付けていきましょう。

## 生活目標、保健目標、学習目標に関連して

今年度から生活目標、保健目標に加えて、学習目標も全校体制で達成していこうという取組を行っています。そこで、研究部報でも月々の目標に関連する事例を紹介していきます！

◆自分の気持ちや考えを友達や先生に伝えたり、話し合いをしたりする◆横手のスタンダードP5

### ◆なぜ、行うのか？



- 気持ちを他者に伝えることで、気分的にスッキリする。聞いてもらった（認められた）という感覚が生まれる。
- 考えを他者に伝える（外に出す）ことで、自分の考えが明確になったり、新たな気づきが得られたりする。
- 他者の意見を交えたり、他者の意見を聞いたりすることで、思考が深まったり、広がったりする。など、多方面からの教育効果が期待されます。

### ◆学習活動の一例としては…

【話し合い活動の設定】



H28学校教育の指針より

### ◆学習活動に設定する上でのポイント

#### 【人数】

意見を伝えたり、話し合ったりする相手は、少人数から始めましょう。

【ペアグループ】

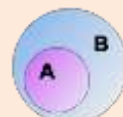


#### 【ルール】

話し方や進行の仕方、質問の仕方など、話す人、聞く人のためにもルール作りが大切です。「いつ、どこで、誰が、何をした」に沿って話したり、質問したりするのもお互いに分かりやすいですね。

#### 【思考を助ける手立て】

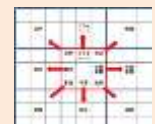
口頭（音声）のみの話し合いは、結論がでなかったり、発言力のある人の意見に傾いたりします。思考を深めたり、整理したりするためのツールや教師の問いかけを効果的に用いましょう。



ベン図



表



マンダラチャート

### 【「話したい」「話してよかった」と思えるように…】

上記に示したポイントの大前提としては、学習に限らず「話したい」と思える雰囲気づくりや関係づくりが大切です。また、学習の中でも「話したい」「話そう」という気持ちになる仕掛けが重要となります。

加えて、話した後は、自分の実感として「話してよかった」と思えるように、話したことで得られた効果やメリット、スッキリした感覚等を教師が言語化しながら児童生徒に返していくことが大切です。

